

(お知らせ)

柏崎刈羽原子力発電所ディーゼル発電機における  
定例手動起動試験の結果について

平成 19 年 7 月 27 日  
東京電力株式会社  
柏崎刈羽原子力発電所

当社・柏崎刈羽原子力発電所では、平成19年7月25日から7月27日にかけて、1～7号機の原子炉建屋内にある非常用ディーゼル発電機\*の定期的な手動起動試験を実施していましたが、本日、午後3時19分に予定された試験を終了し、当該機器の機能の健全性を確認いたしました。

今後も当該機器の定期的な試験を行うとともに、原子力発電所の安全確保のために、引き続き維持・管理してまいります。

以 上

\*1：非常用ディーゼル発電機

原子炉を安全に停止させるための系統、ポンプ等へ電気を供給するためのディーゼルエンジン駆動の非常用発電機であり、燃料は軽油を使用。耐震クラスはAs<sup>(注)</sup>で設計している。柏崎刈羽原子力発電所の場合、1～7の各号機に3台ずつ設置しており、保安規定に基づき1ヶ月に1度、運転可能であることを確認している。なお、今回の試験では、1号機の3台ある当該機器のうち1台が定期検査中のため、それを除いた計20台の起動試験を行い、すべての健全性を確認している。

(注)耐震Asクラスとは

原子力発電所は数多くの設備で成り立っており、これらを設備の重要度に応じてA、B、Cの3クラスに分類し耐震設計をしている。Aクラスのなかで、万が一、原子力発電所に異常が発生したときに、原子炉を「止める」、原子炉を「冷やす」、放射性物質を「閉じ込める」ため、特に重要な設備は、Asクラスに分類され、原子力発電所の設計において地震に対する最も高い耐力を有する設計である。このクラスの設備としては、非常用ディーゼル発電機のほかに、原子炉圧力容器、原子炉格納容器、制御棒駆動機構、残留熱除去系等がある。また、Cクラスは、一般建築物と同等の設計である。